

ヨハネの福音書 第3章 16節

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

紅葉が進み、あたりは晩秋の頃となった。高くそびえる連山には雪模様が現れた。通りには緑と赤の飾りが目立ち始める。軽やかなメロディーが街にあふれる。街の灯がより一層かがやき始める。互いのギフトへの期待がふくらむ一大ギフト・シーズンの到来である。

他方、緑と赤どころか無色のところで過ごす者もいる。どのようなメロディーも響かないところの者もいる。ひかり輝く灯火の無い、暗いところの者もいる。期待に満ちるころではなく、期待できない、期待さえ失せたなかでこの季節に立つ者もいる。

期待する者、期待の失せた者、どちらにも季節は訪れる。期待している者には、何が真に期待すべきことなのかと語りかける。期待無き者には、あなたにも期待できることがありますと語りかける。どのようなあなた、どのようなところの者でも期待できると語る。

神は、世を愛された。御子イエスを信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。神からのギフトを受ける季節。

2023年11月15日